

選挙啓発で区議が超党派の協力！

3月28日（土曜日）、杉並区議会議員23名と地域の明るい選挙推進委員などが、荻窪駅と浜田山駅に分かれて、4月26日に行われる杉並区議会選挙への投票を呼びかけました。これは、昨年6月29日に執行された杉並区長選挙の投票率が、30%を割り込む結果となり、区政への無関心がさらに進むことがないように、区議会議員自ら選挙啓発に乗り出したものです。長い区議会の歴史の中でも、初めての取り組みとなります。

杉並区内の選挙は、直近の衆議院選挙小選挙区（平成26年12月）では、54.61%でしたが、前回（24年12月）63.93%からは、9ポイント以上の上落。また、区長選挙（平成26年6月）は、28.79%と深刻な投票率となっています。政治への無関心は、行政や地域問題への無関心につながるもので、区は成人式など様々な機会を捉えて、選挙啓発を行ってきました。しかし、若年世代を中心とした選挙離れが進んでいるのが現状です。

2月26日に開催された杉並区議会の議会改革特別委員会では、選挙管理委員会にまかせきりにするのではなく、区議会自らの責任で選挙啓発を行い、低投票率対策に乗り出すことが必要であると確認しました。そして、全議員45名のうち23名が参加し、この日の駅頭キャンペーンの実施となりました。23名の区議は、杉並区議会12会派のうち8会派に所属しており、まさに超党派の取り組みとなりました。

本日、午後1時、JR荻窪駅北口には12名の議員と地域の明るい選挙推進委員、区選挙管理委員会職員などが参加し、駅利用者に対して4月26日に行われる区議会議員選挙への参加を呼びかけました。駅利用者の親子連れは、「子どもの将来のためにも、選挙に出かけるようにしたいですね」と話していました。



春の穏やかな日差しの中、荻窪駅頭で約1時間の啓発活動に続き、午後3時から4時には、京王井の頭線浜田山駅周辺に11名の区議が参加して、選挙広報用のティッシュを配りながら、同様の啓発活動を行うことにしています。

【問い合わせ先】

区議会事務局：03-3312-2111